

ほっと

NPO法人 ほっと 会報

〒590-0048

堺市堺区一条通19-13 上笠ビル2階

☎ 072-228-3011 FAX 072-228-3012

E-mail npo-hot@nifty.com

NO. 65 発行: 2024年(令和6年) 11月12日

能登半島地震後、9ヶ月 今なお壊れた建物が、あちこちに・・



倒壊したままの建物が、あちこちに・・

月々残っているのに、壊れたままの建物があちこちに残されていることです。

東日本大震災の時に、2ヶ月後に支援に行きましたが、もう重機が動いて街の復興へ動き出していました。でも、奥能登では重機は見当たらない。壊れたままの建物が「野ざらし状態」。輪島塗の工房(大きな建物)も横倒しになったままでした。ショックでした。大きな道はそれなりに通れるようになっていましたが、小さな生活道路には手が回っていないのか、ガタガタのところが多く、視覚障害の方から「いつもこの町と違う。怖くて外へ出られない」との声も聴きました。

震災直後の1、2カ月間、大きな福祉事業所は、当該事業所の利用者以外も受け入れる「福祉避難所」として活動したとのこと。しかし、そのことに関する報酬はなし。福祉避難所としての運営に必要な公的な支援がほとんどない中で、運営が大変だったそうです。弁当や緊急の物資は回っていましたが、真冬の中で、当該施設にあったものを使っておかず、自分で調達するのは、全国からの支援には、本当に助けられたとのこと。

そこで、杉村さんたちが支援に入り、利用者と一緒に作業(輪島塗の箸を入れる箱づくり)したり、通院支援を行ったりしながら運営を軌道に乗せるために支援したとのこと。食へのこだわりが強く、食べることが難しい利用者がおられました。支援に入った人たちが、その人が食べられる食材を準備することで食べることができるようになったことを伝えました。翌週に支援に入った方の話によると、食べられないものを配っていたお弁当の提供に変更されていたとのこと。ちゃんとつけてくれていました。



数人で援助し1階に

**障害福祉を支える体制が不足
被災地支援を続けるJDF**
支援活動に参加された杉村さん
能登半島地震から9ヶ月たった9月16日、21日(一週間)、奥能登・輪島へ被災地支援活動(JDF・日本障害者フオーラムの呼びかけ)に参加された杉村節子さん(コスモス)にお話を伺いました。開口一番、「私たちが輪島を離れた21日。その日から集中豪雨で被災地・奥能登が大変な状況になっていることに後ろ髪を引かれる思いです」と呟きつつ、語ってくれました。初日16日(月)は、奥能登(輪島市、珠洲市など)の被災状況を視察。支援の必要性を心に刻んで、翌日からの作業所等への支援活動に入られたそうです。

震災直後は福祉避難所として懸命に活動!

小規模作業所の支援に杉村さんは、主に小規模作業所(精神・知的障がい者)の支援に参加したこと。その作業所では2人いた職員は被災して転居・退職を余儀なくされたため、新たに職員を2人採用して再開しましたが、事業継続自体が難しい状況になっていました。



利用者と一緒に作業

9月上旬に現地の支援活動に参加された田中良彦さん(コスモス)が関わった事例ですが、悪性リンパ腫から肢体が不自由になり自宅療養されていたが、自宅が全壊、避難所に行けず、ご高齢のご両親と車の中で生活されて寝たきりになっている44歳の方のケース(輪島)。

バリアフリーの仮設を希望したが入れず、知人の紹介でみなし仮設住宅として2階建てアパートの2階にやむなく入居。その後は通院できず今回の支援でやっと数人が援助して車で病院へ行き受診できました。この方は、アパート入居後初めての外出だったそうです。この状態の改善を支援に入った田中さんたちが訴えて、1階に入居することが出来たとのこと。(裏面に続く)

秋だ！スポーツ、食欲、文化満喫♪

コスモス杯ソフトボール大会

雨での中断を乗り越え、楽しむ♪



決勝戦に向け、さあやるぞ♪

10月23日（水）ファイ
ンブラザ大阪のグラ
ンドで6チームが参加し
て第21回コスモス杯ソ

美味しいものを食べて 秋のイベントを満喫♪

森のカフェのオープン以来
開催している「秋のイベント」
が10月27日（日）に開催。秋
真つた中・美味しいものを
一杯食べて、遊んで、楽しん
でもらおうと開かれました。

大浜体育館の行事 に合わせて開催

当日は、隣の大浜体育館で
の柔道と相撲の大会に合わせ
て開いたこともあって、沢山
の方々が来られたとのこと。

職員は藤田さんは「普段は、
ボテトやタコ焼き、唐揚げな
どですが、今回は焼きそばや
炊き込みご飯、りんご飴など
も加え、さらには絵付け、ポー
ル投げ、ヨーヨー釣り、スタ
ンプラリーといういろいろ楽しん
でもらおうと準備しました。

みなさんの笑顔が嬉しい

厨房内はバタバタでしたが、
外を見るとテーブル席で待つ
ているお客さま。皆さんの笑

フトボール大会が開か
れました。
当日の朝は、晴れて
いましたが、だんだん
と怪しい天気になり、途
中で雨が降り出して中
断に。
**雨の中断も、みんなで
相談して再開へ**
そこで、各チームの
キャプテンが集まって
もらって一緒に相談し
ました。みんなは、
「せっかく集まったん
やし、天気もこれくら
いならやりたい！」と
の意見で一致。ファイ
ンブラザの方も、その
間に新しい土を入れて

くれるなど力を貸して
くれました。そうこう
している間に、雨も少
し収まったので再開！
仲間自身が準備
開けば、事前に各チー
ムのキャプテンが集ま
って会議を開催。トーナ
メントの組み合わせの
抽選をしたり、各役割
分担（得点表、横断幕、
トーナメント表の作成
など）を相談するなど、
仲間自身が準備しての
開催当日でした。
試合結果は、「おお
はまミラクルズ」が栄
えある優勝♪みんな大
いに楽しみました♪

顔が、スタッフの力となる一
日でした」と満足そうでした。



表面（能登支援）記事のつづき

JDFの支援が支え

地域での生活を支える「相
談支援事業所」では、「相談
がたくさん寄せられるが、支
援する側が不足している困っ
ている」とのこと。これにJ
DFからの支援員がサポート
しています。

いつも、オレンジのベスト
を着て活動している私たち支
援員を見て、「まだ居てくれて
いるんやね。有難い」と地元

なお、ほつと理事長の松永氏は、集中豪雨で度重なる大きな被
害に遭った輪島へ10月末に行き「泥かき隊」支援活動に参加。

7・29 年々出展作品も増え、力作ぞろい！

10月24日、「ブラザアートフェ
ステバル」（障害者芸術作品展）
に寄せて頂きました。

会場の堺市健康福祉プラザ体
育館には、床面から壁面、パネ
ルに至るまで書道、絵画、陶芸、
立体造形など沢山の作品が飾ら
れていました。ペットボトルの
キャップを貼り合わせた立体
造形や段ボール箱で作られた版
和線の電車（乗れるようになって
いる！）など、作者の思いや
こだわりの作品がお互いに主張
し合っているようでした。

会場中央の床面では、アート
スタッフの方が仲間と一緒に自
由に描くワークショップをして
おられ、会場に自由なアートの

10月24日「アートフェ



作品展の会場全景

雰囲気を感じ出していました。
スタッフの方に向うと、「出
展作品が年々増え、今年は過去
最多の応募となりました。この
フェスタをめざしてみなさん製
作されています。個人だけでは
なく、作業所などグループでの
共同作品もあり、いずれも力作
です」と語っておられました。
作品そのものと作品に込めら
れた思いに注目したいですね。

の人たちから声がかかります。
**被災地には支援が必要
行けば、学ぶことも**
まだまだ先が見えない被災
地・奥能登の現実があります。
最後に、杉村さんは、「JDF
は来年3月まで支援を続け
る予定ですが、今回の水害も
あり、支援期間が延長される
かも。いろんな人が支援に行っ
て欲しい。地元では、まだま
だ支援が必要。私たち自身に
も学ぶことが有ります」と。